

28年2月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成28年 2月1日～ 28年2月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は12社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/2月	3月	4月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 13.6	△ 31.8	△ 31.8
	マツ	△ 36.4	△ 31.8	△ 31.8
	広葉樹	△ 29.2	△ 25.0	△ 25.0
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 20.0	△ 20.0	△ 20.0
	マツ	△ 30.0	△ 22.2	△ 22.2
	広葉樹	△ 27.3	△ 18.2	△ 18.2
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 18.2	△ 31.8	△ 36.4
	マツ	△ 20.0	△ 27.3	△ 27.3
	広葉樹	△ 37.5	△ 29.2	△ 33.3

・チップ用国産原木の入荷、消費及び在庫は、3ヵ月連続して減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	28/2月	3月	4月
スギ・ヒノキ	4.5	4.5	4.5
マツ類	0.0	2.3	0.0
広葉樹	4.2	0.0	2.1

・チップ用国産原木の購入価格は、全品目でやや強含みないし横ばいで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・バイオマス燃料施設が稼動し始めるため、材の入荷が鈍るのでは(東北)。
・針葉樹は、システム販売の入荷により一時的に増加すると思われるが、終了とともに減少。広葉樹は季節的要因(スギ→雑木)と天候の回復で増加すると思われる。在庫はやや増加(東北)。
・1月の入荷が予想外に減少のため、2月に影響が残り、また天候も関係する。入荷の減少で消費・在庫に影響が残る。(中国)。
・当月は積雪を心配していたが積雪なく、仕入れ横ばい、翌月、翌々月は積雪でやや減少が考えられる。バイオマス、製紙、ボードメーカーとも原料が必要だが、生産は仕入動向と同じ動きになる。チップ需要があり、原木在庫は入荷状況によっては横ばい、減少が起こる(四国)。
・針葉樹、広葉樹共通常の入荷、全樹種製紙用はフル生産、針葉樹は当初計画分のみのため少しブレキがかかっている。これまでの在庫が過剰だったためチップ生産が順調な分、在庫はやや減少(九州)。
・仕入は低調。仕入状況に応じた生産(九州)。

(原木価格)

・県内のバイオマス発電は@6,500円/tで定着。製紙会社は若干上回る。他県のバイオマス発電は7,000～7,500円/tで集荷している(中部)。
・変動なし(中国)
・しばらくは今の価格で維持と思われる。発電用の丸太価格のこれ以上の上昇は追随できない(九州)。
・現状維持(九州)。

28年2月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/2月	3月	4月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 25.0	△ 20.0	△ 20.0
	マツ類	△ 40.9	△ 25.0	△ 25.0
	広葉樹	△ 36.4	△ 27.3	△ 27.3
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 13.6	△ 18.2	△ 18.2
	マツ類	△ 31.8	△ 22.7	△ 22.7
	広葉樹	△ 37.5	△ 29.2	△ 20.8
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 27.8	△ 33.3	△ 33.3
	マツ類	△ 38.9	△ 33.3	△ 33.3
	広葉樹	△ 40.0	△ 35.0	△ 35.0

・木材チップの生産、出荷及び在庫は、3ヵ月連続して減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	28/2月	3月	4月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・木材チップ出荷価格は、3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・スギ、広葉樹共仕入減により、減産気味、仕入増加になり次第増産したい（東北）。
- ・製紙会社、バイオマス発電とも需要は堅調（中部）。
- ・仕入減のため生産も減少。製紙用チップの引き合いは大きいですが、原木の入荷が伴わず、希望にあった出荷が出来ない状況。リサイクルチップは受け止めが断続的にある（中部）。
- ・1月末の在庫の影響が残り、生産、出荷は2月はやや減少、3月、4月は横ばい（中国）。
- ・仕入動向で、生産は横ばい、やや減少が起こる。燃料用在庫はやや減少、製紙ボード用減少（四国）。
- ・フル生産している（九州）。
- ・製紙用は原木の入荷に応じて生産（九州）。

(木材チップ価格)

- ・特に変化ない（中部）。
- ・変動なし（中国）
- ・しばらくは変化なし（九州）。
- ・現状維持（九州）。